

留 学 報 告 書

記入日:2019年3月27日

所属学部／研究科・学科／専攻	政治経済学部政治学科
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: テンプル大学 現地言語: Temple Univerisity
留学期間	2018年8月～2018年12月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2019年1月11日
明治大学卒業予定年	2020年3月
留 学 先 大 学 に つ い て	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期: 2学期: 3学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	約4万人
創立年	1884年

留学費用項目	現地通貨 (USD)	円	備考
授業料	0	0円	交換型のため学費負担なし
宿舍費	5000	500000円	
食費	2500	250000円	
図書費	80	8000円	
学用品費	30	3000円	
教養娯楽費	1500	150000円	
被服費	200	20000円	
医療費	0	0円	
保険費	760	76000円	形態:海外旅行保険(明大サポート)
渡航旅費	2600	260000円	
雑費	500	50000円	
その他		円	
その他		円	
その他		円	
合計	13170	1317000円	

渡航関連

渡航経路:羽田→シカゴ→フィラデルフィア国際空港

渡航費用

チケットの種類	エコノミークラス
往路	13 万円
復路	13 万円
合計	26 万円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

明大サポートにて航空券予約

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

大学の学生寮

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数 6 人)

3)住居を探した方法:

留学先大学による斡旋

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

必要な設備とセキュリティは揃っている。

現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった

利用した:

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

特に問題はなかった。留学生には一人一人にアドバイザーの職員がついてくれていた。

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

大学から近隣の防災情報がメールで送られてくる。犯罪に巻き込まれたことはなかった。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

大学構内では問題なくWiFiが繋がった。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?

日本のネット銀行の外貨預金口座を開設した。

6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

箸、耳かき、ポケットティッシュ

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

卒業後の進路について

1) 進路

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

就職先未定。

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
内定先未定。IT 業界志望。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例：留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※1～3年生で、就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
留学を通じてどんな成長ができるのかをよく考えることが重要だと思う。
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 11 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
History & Significance of Race in America	アメリカにおける人種の歴史と重要性
科目設置学部・研究科	政治学
履修期間	2018 年秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、ディスカッション(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 150 分が 1 回
担当教授	Nicholas A. Robinson
授業内容	アメリカにおける奴隷や人種差別、市民運動について教授が講義を行い、その後学生がディスカッションを行う。
試験・課題など	中間エッセイと期末エッセイ。どちらも 3 枚程度の長さ。
感想を自由記入	アメリカならではの科目だと思った。教室内にいるさまざまな人種の学生が意見を交わすのがおもしろかった。
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
War and Peace	戦争と平和
科目設置学部・研究科	政治学
履修期間	2018 年秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 50 分が 3 回

担当教授	John Hess
授業内容	歴史上の戦争についてその原因や背景を探るという内容。どのようにして平和を達成するかについても扱った。
試験・課題など	中間エッセイ（1000語）と期末エッセイ（1200語）。
感想を自由記入	学生たちが日本人とは違った戦争観を持っていて興味深かった。授業のペースが速く、ついていくのに苦労した。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
American Political System		アメリカ政治制度	
科目設置学部・研究科	政治学		
履修期間	2018 年秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回		
担当教授	Michael G. Hagen		
授業内容	アメリカの政治制度についてテキストに沿って広く学習。アメリカ政治を知る上での基本を知ることができる。		
試験・課題など	4 回の小テストと 1 回の期末テストに加え、1000 語程度のエッセイが課される。		
感想を自由記入	1 冊のテキストに沿って授業が進行するため、理解しやすかった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
US Public Policy Making		公共政策	
科目設置学部・研究科	政治学		
履修期間	2018 年秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に 80 分が 2 回		
担当教授	Gary Mucciaroni		
授業内容	アメリカにおける連邦政府での立法過程を学習		
試験・課題など	6 回の小テストと 1 回の期末テスト。秋学期間を通して進めるエッセイ課題 (15 ページ程度)。		
感想を自由記入	長いエッセイを書かなければならず苦労したが、教授にとっても親切にいただき、たくさんアドバイスをもらった。		

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2017年 1月～3月	語学学習
4月～7月	IELTS 受験
8月～9月	語学学習
10月～12月	学内選考出願
2018年 1月～3月	学内選考通過、テンプル大学出願書類提出
4月～7月	渡航準備
8月～9月	渡航
10月～12月	中間試験、期末試験
2019年 1月～3月	旅行、帰国
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

留学しようと決めた理由	<p>留学を決めた理由は、より高いレベルの学習環境に身を置くためでした。日本の大学にいる限りは、単位を取得するためにそれほど努力は必要ではなく、周りの学生も意欲があまり高くないため、楽な方に流されてしまいやすいです。そこで、言語の壁もあるアメリカの大学に行って、自分を追い込もうと決めました。</p> <p>また、私はもともと海外経験が乏しかったため、いずれは日本以外の国で生活し、異文化に触れてみたいと思っていました。この思いを実現するうえで、交換留学という形で低いコストで海外生活を経験できることは、経済的にも魅力的でした。一般的に、アメリカの大学の学費は日本の大学よりも高いため、明治大学に納める学費で、アメリカの大学の教育を受けられるという制度を有効活用したいと考えました。</p>
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	<p>語学学習は念入りに行ったつもりでしたが、現地で生活し、授業に参加してみると、英語力不足を痛感しました。個人的には、特に重要なのがリスニングだと思います。人と関わるあらゆる場面で、相手の言っていることを聞き取れないと会話にならず、一人だけ取り残されてしまうからです。語学力は高ければ高いほど、留学先で吸収できることも多くなると思います。</p> <p>また、自分が行く国の芸能やスポーツについて何か少しでも知っておくと、会話のきっかけになり、友人を作りやすいと思います。私の場合は、アメリカのプロバスケットボールが好きだったため、バスケ好きの現地人と会話がはずみました。一方で、アメリカの音楽や映画などの芸能関係についてほとんど何も知らなかったため、友人の話がピンとこないという場面もありました。</p>
この留学先を選んだ理由	<p>英語力を向上させるため、英語圏の国に留学したいを思い、アメリカを選びました。アメリカの中でもテンプル大学を選んだ理由は、一つ目は都市部に位置していることです。テンプル大学があるフィラデルフィアはニューヨークとワシントン DC の中間に位置し、街の規模も大きいです。そして二つ目は学生数に対する教職員数の割合が高いことです。留学生として学習するうえで、教授や大学職員が多い方が少人数の授業を受けられたり、きめ細かな支援を受けられると考え、テンプル大学を留学先として決めました。</p>
大学・学生の雰囲気	<p>はじめに抱いた印象は、キャンパスがとても大きいということでした。メインキャンパスは日本の一般的な大学よりもかなり大きく、大学自体が一つの町のようになっています。</p> <p>また、学生たちは自分たちの大学をとっても愛しています。ほとんどの学生は帽子やTシャツなどの「テンプルグッズ」を身に付けていますし、大学のアメリカンフットボールやバスケットボールの試合では熱狂的に応援します。</p> <p>加えて、テンプル大学は多様性の価値を認めており、キャンパス内には様々な人種や、ことなる言語を話す学生が多く、それぞれのバックグラウンドを大事にする雰囲気も感じられました。</p>
寮の雰囲気	<p>私が入っていた寮は6人でキッチンやバスルームを共有し、2人で寝室を共有していました。6人の間ではトラブルなどもなく、快適に過ごすことができました。同じ寝室だったルームメイトはとても優しく、私が困ったときには何でも手助けしてくれました。例えば、初めてエッセイ課題が出たときには、アカデミックライ</p>

	<p>ディングの基本フォーマットを親切に教えてくれました。</p> <p>寮全体としては、留学生の多い寮であったため、レジデントアシスタントの学生が、何か困ったことはないかと気にかけてくれたり、交流のためのイベントを開催するなどしてくれたため、打ち解けやすい雰囲気でした。</p>
交友関係	<p>最初の一週間に行われる留学生向けオリエンテーションにて、台湾人の留学生と意気投合し、週末には一緒に出掛けるなど、交友を深めました。</p> <p>他にも、寮のルームメイトとは自然と仲が良くなり、二人でニューヨークまでバスケットボールの試合を観に行ったこともありました。</p> <p>また、日本文化理解を目的としたサークルにも所属し、日本に興味のあるアメリカ人やアジア出身の学生と交流することができました。サンクスギビングの日にはそこでできた友人にパーティーに呼ばれ、有意義な時間を過ごすことができました。</p>
困ったこと、大変だったこと	<p>大変だったことは、英語での会話についていけない時があったことです。人と一対一で会話しているときは、聞き取れなかった言葉などを聞き返しながら、相手が私の英語レベルに合わせて話してくれます。しかし、数人で会話をする場合には、全員が私のレベルに合わせてくれるわけではないため、何を話しているのかわからなかったり、会話のテンポに追いつけなくなるときが多々ありました。</p> <p>英語以外では、食事の値段が高く、かつ栄養バランスが悪いという問題もありました。</p>
学習内容・勉強について	<p>すべて政治学関係の科目を履修しました。アメリカでの人種問題や、外交問題といった、日本人の視点ではなかなかわからないような問題を扱う授業が多く、大変勉強になりました。</p> <p>また、少人数制の授業が多かったため、学生の発言の機会が日本の大学の授業に比べてはるかに多かったです。学生たちは積極的に教授に質問することや、自分の意見を短い時間でまとめて発表するということに慣れていて感じました。最初のうちは、私の英語力が足りず手を挙げて発言することができませんでした。慣れていくうちに授業に積極的に参加できるようになりました。</p>
課題・試験について	<p>膨大な課題に圧倒されました。毎回の授業ごとにリーディングの課題が課され、日々の勉強時間の多くは指定されたテキストを読むことに費やしました。</p> <p>最も苦勞した課題はエッセイライティングです。アカデミックライティングでは論理的な英文を書かなければならないため、書き始めるまでの事前調査に時間がかかりました。しかし、英語学習者向けに「ライティングチュータリング」というサービスが学内にあったため、そこでチューターの学生にエッセイを添削してもらったうちに、自分の英作文力を磨いていくことができました。</p>
大学外の活動について	<p>週末にはどこかへ出かけるように心がけていました。フィラデルフィア市街地に行って歴史のある建物を巡ったり、大好きなバスケットボールの試合を観に行ったりしました。また、アイビーリーグの一枚であるペンシルベニア大学が近くにあったため、観に</p>

	<p>行ってキャンパスの雰囲気を経験したこともありました。 留学プログラム終了後は、3週間ほど一人で旅行しました。東海岸からロサンゼルスへ向かって、ワシントン DC やテキサスなど、計5つの都市を観光しました。</p>
留学を志す人へ	<p>留学に行くかどうか迷っているのならば、不安な気持ちを一旦しまつて挑戦することをおすすめします。英語の不安や就職活動の不安は、留学中の経験や成長から比べたら小さな問題です。まずは行って見て、困ったことがあればそこからまた考えるでもいいと思います。</p> <p>交換留学は大学生のうちにはしかできません。海外の大学に通うのを、所属大学が支援してくれるというのは本当にありがたいことです。留学を検討している人は、ぜひこのチャンスをつかんでほしいと思います。</p>

一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業		授業		授業		
				自習			外出
午後	授業		授業	授業	授業	自習	外出
	自習	授業	サークル	授業	自習	自習	
夕刻	自習	自習	自習	自習		自習	
夜	自習	自習	自習		学生団体のイベント		自習